

令和7年度

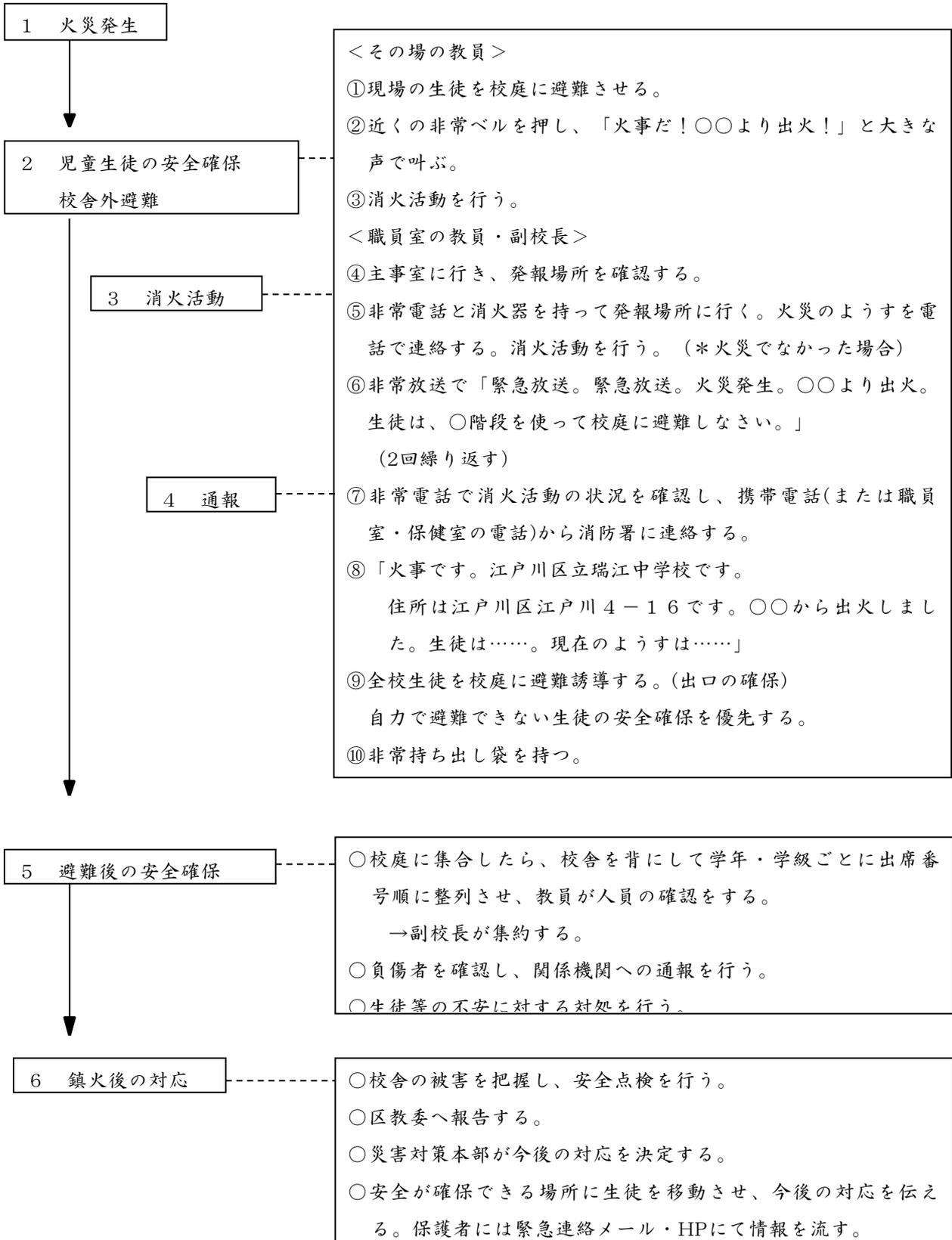
# 危機管理マニュアル

- 火災対応
- 不審者対応  
(防犯上の観点から掲載無し)
- 事故対応
- 熱中症対応
- 落雷

江戸川区立瑞江中学校

## 火災対応

### 火災発生時の基本的対応要領



\*火災でなかった場合

非常ベルが間違っって押された場合には、主事室の警報盤横のマニュアルにより復旧作業を行う。

## ◎ 留意事項

### ■ 平常時

- (1) 出席簿の表紙の裏に、在籍数を記入した「確認票」を常備しておく。
- (2) 毎日、職員室前の「生徒出欠表」に始業時の出欠状況や、遅刻・早退の状況を記入しておく。

■ 授業中（教員が指導している時）… 教員は生徒に適切な指示を与え、避難させる。

#### 1. 避難前

- (1) 緊急放送を良く聞く。出火場所を聞き取り、避難経路を判断する。
- (2) 「窓をしめ、カーテンを束ねる(開ける)。扉をしめ、電気を消す。」ことを指示する。
- (3) 生徒を廊下に出し、2列に並ばせる。

#### 2. 避難中

- (1) ハンカチを口に当て、姿勢を低くし、「お（おさない）、か（かけない）、し（しゃべらない）、も（もどらない）」を守らせて移動させる。
- (2) 階段を降りるときは、上の階のクラスが内側、下の階のクラスが外側を歩く。（待たせない）
- (3) 最後のクラスが避難したら、担当者が防火扉を閉める。

#### 3. 人員確認

- (1) 校舎を背にして（火を見せない）、クラスごとに出席番号順に並ばせる。  
\*少人数指導の場合もクラスごとに並ばせる。
- (2) 担任（または教科担任）が、生徒の肩を叩いて点呼を行い、その場にしゃがませる。
- (3) 担任（または教科担任）は、確認票に不在生徒の数と名前を書いて副校長に報告する。  
「〇年〇組、在籍〇名、欠席〇名、現員〇名、異常なし・あり（〇〇が不明）」  
\*「欠席」とは、その時点での不在生徒のこと。（欠席・早退・遅刻・公欠を含む）  
<避難完了>
- (4) 担任がクラスにつく。

■ 休み時間等（教員が指導していない時）… 生徒は自主的に判断して、避難を行う。

#### 1. 避難前

- (1) 緊急放送を良く聞く。出火場所を聞き取り、避難経路を判断する。
- (2) 近くの窓をしめ、カーテンを束ねる（開ける）。扉をしめ、電気を消す。

#### 2. 避難中

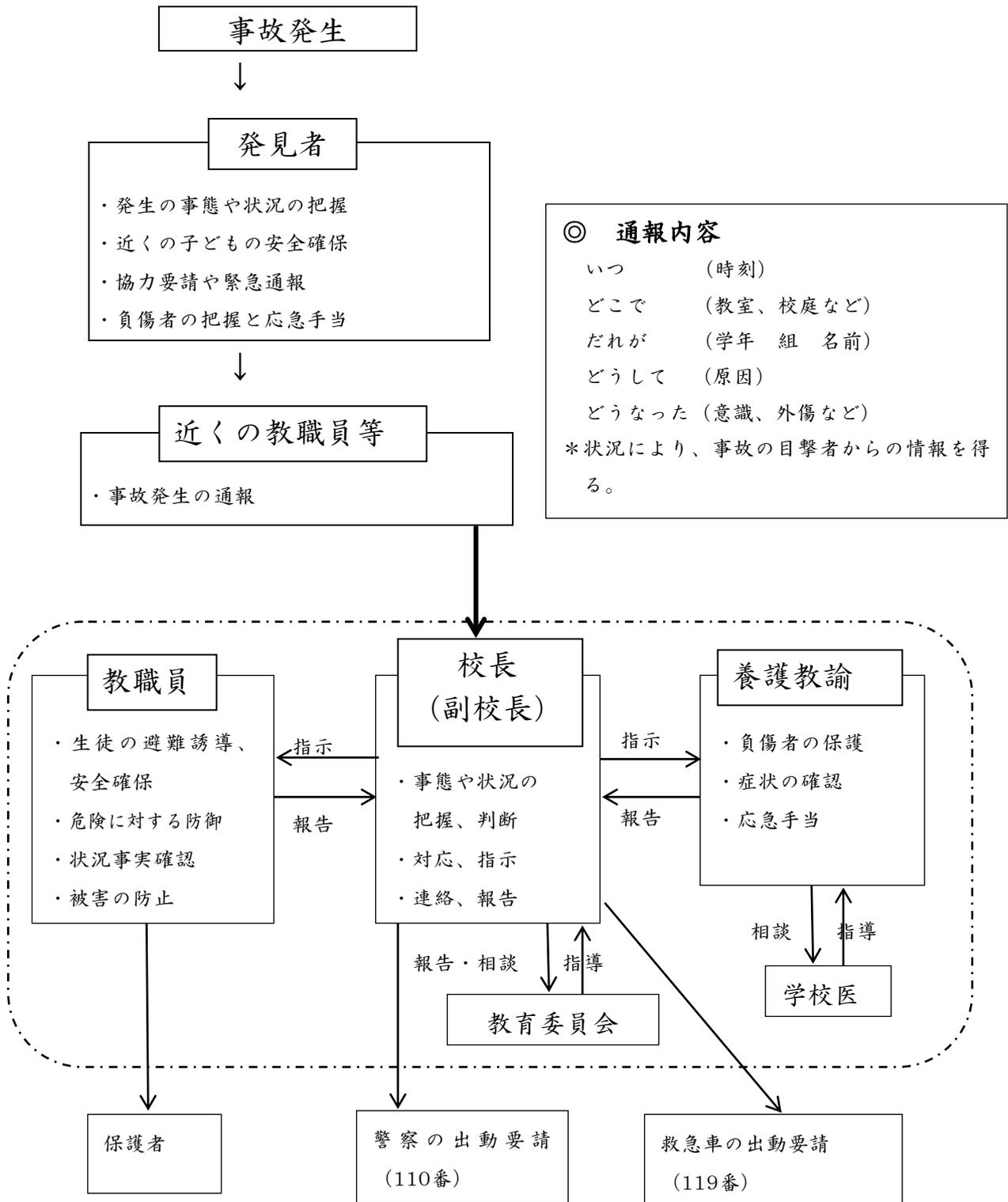
- (1) ハンカチを口に当て、姿勢を低くし、「お（おさない）、か（かけない）、し（しゃべらない）、も（もどらない）」を守って、安全な避難経路を通して移動する。

### 3. 人員確認

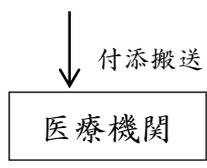
- (1) 校舎を背にして、クラスごとに出席番号順に並ぶ。
- (2) 教員の指示に従って、待機する。

## 事故対応

### 1. 事故現場での対応体制



\*被害の状況や緊急度に応じて  
緊急対策委員会や緊急職員会議を行う。



## 2. 事故発生時の係分担

係	担当	内容
総指揮	校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事態や状況の把握、判断</li> <li>・ 副校長、教職員、養護教諭等への指示</li> <li>・ 防御、避難誘導の指示</li> </ul>
通報連絡	副校長 教務主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急車の出動要請</li> <li>・ 警察の出動要請</li> <li>・ 保護者への連絡</li> <li>・ 教育委員会への報告</li> <li>・ 報道機関との対応</li> <li>・ 記録</li> </ul>
避難誘導	学級担任教 科担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難場所への誘導</li> <li>・ 避難場所での安全確保</li> </ul>
防 御	副担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暴力の抑止と被害の防止</li> </ul>
救護活動	養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負傷者の保護</li> <li>・ 症状の確認</li> <li>・ 応急手当</li> <li>・ 健康状態の把握</li> <li>・ 心のケア</li> </ul>

## 3. 事故発生後の報告と事後処理

(1)教育委員会への報告

事故発生後できるだけ速やかに、教育委員会に報告する。



(2)日本スポーツ振興センター申請手続き

- ・重大な事故の場合は、指導計画・内容、当日の状況等の詳細な報告を求められる。記録は正確にとり長期にわたって保存する。

(3)記録の管理

- ・事故発生の状況や措置について、時系列で記録する。
- ・記録は添付書類（指導計画、指導内容等）とともに長期保存をする。

(4)一般生徒への指導

- ・一般生徒が不安に陥ることのないよう配慮する。
- ・事故の概要について可能な範囲で、できるだけ早く説明する(全校集会等)。
- ・安全対策を再点検するなど再発防止について指導を行う。

(5)対外折衝

- ・無用の混乱を避けるために、窓口を一本に絞って管理職が行う。

(6)保護者への説明

- ・重大な事故の場合は、事実と異なった内容が流れ、不安や混乱を招く恐れもあるので、校長と教育委員会は連携を図りながら、必要と認めた場合に保護者への説明の場を設定する。電話連絡網を使用する場合は連絡内容を簡潔にし、正確に伝わるようにする。

## 緊急通報マニュアル 救急車を要請する場合

◎「119」をダイヤルする。

・「こちら消防庁。火事ですか、救急ですか。」

「救急車をお願いします。」

「江戸川区立瑞江中学校です。」

「住所は江戸川区江戸川4-16です。」

「電話番号は、03-3651-2210です。」

「けが人(病人)は 中学〇年生、男子、(けがの起きた状況)」

「症状、けがの状態は \_\_\_\_\_」

正門を開け、通りに出て、救急車が到着したら案内をする。

# 熱中症対応

## 熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。  
落ち着いて、状況確かめて対処しましょう。  
最初の措置が肝心です。

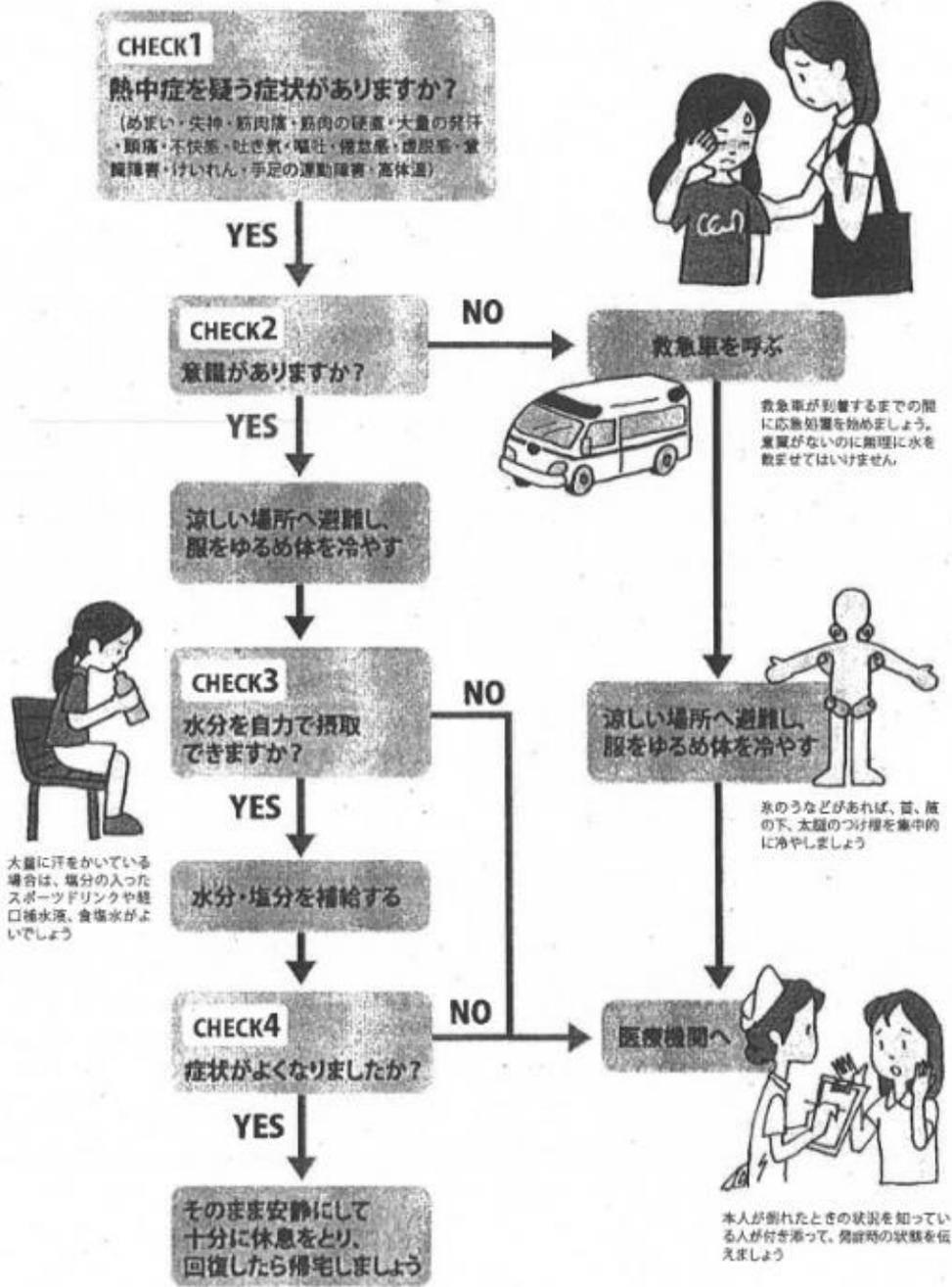


図2-7 熱中症を疑ったときには何をすべきか

熱中症の危険信号として、次の症状が生じている場合には積極的に重症の熱中症を疑うべきでしょう。

#### 熱中症の危険信号

- ・高い体温
- ・赤い・熱い・乾いた皮膚  
(全く汗をかかない、触るととても熱い)
- ・スキンスキンとする頭痛
- ・めまい、吐き気
- ・意識の障害  
(応答が異常である、呼びかけに反応がないなど)

#### 運動に関する指針



気温 (参考)	WBGT 温度	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31℃以上	運動は 原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合は中止すべき。
31～35℃	26～31℃	厳重警戒 (激しい運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いため、激しい運動 や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 運動する場合には、頻りに休息をとり水分・塩分の補給を行う。 体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28～31℃	25～28℃	警戒 (積極的に休息)	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息 をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
24～28℃	21～25℃	注意 (積極的に水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性 がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水 分・塩分を補給する。
24℃未満	21℃未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水 分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注 意。

# 落雷から子供を守る 教員のためのフローチャート

落雷による被害を防ぐために、教員がとるべき行動を下表にまとめました。活動等を行う際の参考にしてください。なお、フローチャートで示した行動は一例であり、実際の気象状況や各学校の実態に応じた適切な対応をお願いします。

## 活動前 朝や活動実施前

### 雷注意報の有無を確認

### 気象情報の確認 (雷ナウキャスト)

注意報がない。

→活動を実施

注意報がある。

→活動を原則中止

## 活動中

### 随時、空の様子を確認

真っ黒な雲が近づき、周囲が急に暗くなる。

雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。

ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。

大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

これらの状況がない。

空の様子に注意し  
活動を継続

これらの状況がある。

活動を中止  
すぐに安全な場所へ避難する。

雷から身を守るには、

- 建物や屋根付きの乗り物へ避難する。
- 木や電柱から、4 m以上離れる。  
(高い木の近くは危険であることから、最低でも、木の全ての幹、枝、葉から2メートル以上は離れる。)
- 近くに避難する場所がない場合は、姿勢を低くする。

※ この資料は、「気象庁 ホームページ」を基に作成しています。